

目次

写真

序

第一編 内務省直轄土木工事略史

- (一) 明治初期以来の土木制度、河川及び砂防……………五
- (二) 主要改修河川の概要……………一八
- (三) 諸氏の工事経歴……………六三
- (四) 省内、土木試験所、河川砂防港湾工事技師名……………一〇〇

第二編 沖野博士伝記

- 碑文と略歴……………一五
- (一) 沖野博士伝……………一六一
- (二) 諸氏の追懐記……………一九九

跋

二五一

序

我国治水港湾技術の大恩人で、且つその元祖である、故沖野忠雄博士が、大正十年薨去されてより、已に三十七年を経過したるも、今にその事蹟を記せる冊子なし、誠に遺憾の至りである。今回後輩共の旧交会は、その伝記を作り後世に伝えんと企てた。氏の事蹟を述ぶるは、日本の河川砂防港湾の歴史を書くと同様の結果となる。實際此等の工事は、氏の在職中に起工し、氏の意見が多分に存在するからである。左れども何分古きこととて、当時の人々皆仙去し、極く一部の人残存せるのみなれば、詳細を知るに由なく、且つ官庁書類の多くは戦災にて焼失したから、之が輯集には多大の労苦があつた。

本書は沖野氏の伝記として稿を起したが、河川砂防港湾の記事が意外に多くなり、主客顛倒の觀を呈するに至つたから、工事の記事を第一編に入れ、伝記を第二編に置くこととした。又本書は内務省直轄土木工事の外史であつて、一読明治以後の経過と変遷を知るに便利である。且つ工事に従事した人々の氏名を列記した事は、従来何人も為さなかつたことで、多少は後の参考に役立つであらう。沖野博士を知る人にも、知らぬ人にも、苟も土木人には、その人の風貌を知り、その意気と徳風を体得して頂きたいと希望する次第である。

本書の編纂は、初めより終まで、博士の指導を受けた本会々員真田秀吉君を煩わした。

昭和三十三年秋

舊 交 会